

ゼロエミッション車で世界をリードするという英国の野心

2019年5月16日の英国のビジネス・エネルギー・産業戦略省（以下、BEIS）のニュースリリースによると、中部地方のコベントリー市を拠点とするバッテリー工業化センター（以下、BIC）の設立が発表された。BICは高度な技術を身に付けた人材を生み出し対内投資を誘致すると共に、最先端の電気自動車用バッテリーを開発するための政府の投資に支えられた英国の中心的拠点を目指している。

BEISはBICに2800万ポンド（40億円）の拠出を明らかにしており、これは英国のGiga factory-電気自動車用の大規模電池技術工場への挑戦の足がかりとなる。

この拠出は、国の産業戦略の挑戦基金を通じて、BICへの8000万ポンド（112億円）の初期投資に加えられ、新しい電池の技術開発のための世界をリードする試験設備にも当てられる。この投資はまた電池製造の技術者に実践的なトレーニングの提供も行う。

BEISのクレア・ペリー大臣は次のように述べている。

「英国をゼロエミッション車の設計と製造の最前線に置くことは、私たちの計画の中心であり、全国に成長と雇用機会を創出させることが出来る。バッテリー技術の急速な発展の可能性に牽引されて、この投資は世界のほんの一握りの国である英国が移動体の将来の課題に対処するための次のステップに過ぎない。この新しい施設への投資は、英国の世界をリードする自動車産業が国際的に競争力を高め、さらなる投資を呼び込み、新しい自動車用バッテリーの設計と開発のためのサプライチェーンの確立を支援する。」

ウェストミッドランズ地域のアンディ・スツリート知事は次のように述べている。

「コベントリー市が英国のバッテリー工業化センターを誇るのは、この都市とウェストミッドランズ地域にとっても大きな期待である。1億8,800万ポンド（260億円）の施設は、世界の電気自動車の生産をリードするという、この都市と地域を大きく後押しすることになるだろう。既に始まっている地域産業戦略では、ウェストミッドランズ地域の強みとして、高度な製造業、医学研究、そして創造的およびデジタル産業の強みも発揮するだろう。この戦略はこれらの強みを活用し地域全体のすべてのコミュニティに利益をもたらすことができる強力な経済的未來が創り出せると考えている。」

UK Research and InnovationのFaraday Battery Challengeディレクターである

トニー・ハーパー氏は、次のように語っている。

「この新しい世界クラスの施設により、英国は国産のバッテリー技術がグローバルな競争力を高めるために準備することができる。更なる追加投資は、野心的に設備を拡大し、世界的に高まる電気自動車の需要を満たすために貢献できることを意味している。」

コベントリー市議会議員ジム・オボイル氏は次の様に語っている。

「ガソリンエンジンは、人々が考えられないような方法で世界を変えた。そして今、電気自動車の進捗は再び同じことをやろうとしている。そして私はコベントリー市が再びその道をリードしていることを嬉しく思っている。」（注：コベントリー市は80年代までは英国の自動車産業の一大中心地で多くのメーカーの開発拠点や工場があったが、今ではジャガーやブジュー（仏）やLTC（ロンドンタクシー）の工場があるのみである。）

政府のミッドランズエンジン・チャンピオンのジェームズ・ブローケンシャー氏は、ウェストミッドランズ地域産業戦略について次のように述べている。

「これは、ウェストミッドランズ地域の人々とミッドランズエンジンにとって極めて重要な瞬間である。ウェストミッドランズの地域産業戦略は、地域への継続的な投資と、イノベーション、野心、そして創造性という地域および地域の強みを活かして、経済活動に最大の影響を与えるだろう。自動運転車や医療技術の先駆けから輸出や技術の向上に至るまで、この戦略で設定された優先事項を満たすことで、現在および将来において雇用、機会、繁栄が生まれる。」

今後、BICが順調に稼働し、英国がゼロエミッション車で世界をリードすることを期待したい。一方、英国のゼロエミッション車への挑戦は10数年前から徐々にそして確実に進捗している。例えば、ロンドンは2003年からガソリンとディーゼル車の中心部への乗り入れに£11.50（1600円）の渋滞税（EV/HB車は無税）を課して、中心部の大気汚染対策とCO2削減策を実行しており、その税収（2014年の実績£2.4億-330億円）で地下鉄の新型車両の導入やタクシーとバスのEV化を果敢に進捗させている。

渋滞税の効果はスタートして4年目には市内に進入する車が36%減、CO2は18%減、地下鉄の乗客は18%増、2014年の自転車通勤者は49%増と顕著である。そしてロンドンでは自転車通勤を奨励しており、自転車専用レーンの拡充や自転車専用高速道路網の整備も着々に行われている。自転車通勤者を受け入れる企業側も事務所に駐輪場やシャワー室付きのロッカールームを設ける所が増えている。一方、英国としては2030年までにガソリン・ディーゼル車の販売禁止を打ち出してEV化へのシフトを明確にしている。

参考までに、以下のロンドン便りで渋滞税と自転車専用レーンの詳細をご覧ください。

http://www.kuramae-bioenergy.jp/main/wp3/wp-content/uploads/2015/10/london_83.pdf ロンドン便り その83 渋滞税の導入

http://www.kuramae-bioenergy.jp/main/wp3/wp-content/uploads/2015/10/london_85.pdf ロンドン便り その85 自転車専用レーンの整備

英国は、一旦掲げた様々な目標は政権が変わってもぶれずに粛々と実行されている現実にもいつも驚かされている。日本の為政者も付度と言う言葉を忘れて、本質を突いた普遍的な政策や施策を立案し、実行して欲しい。（了）